

Nutrition Support Times



チーム医療が生む力

翌日、古川さんから、「御主人が、“みんなが良くなってる良くなってるって言うってくれるけど、主治医の先生から数字で、状態を教えて欲しい”とおっしゃってます。」了解。時系列情報でデータを打ち出し、拡大コピーして差し上げる。「TPは、total proterin ですね。(すらすらと綴りも、正しい。)ほう、5.7ですか。えーと入院時が4.5だから、1.3倍にもなりましたね。」と御主人ご満悦。

恐らく数ヶ月ぶりの入浴や身に付く食事のおかげで、筋力も付き元気になってきて御本人もツヤツヤになって、ご満悦。NST 回診時には chairman ベッピに、「ずうっと、ここの病院に置いて下さい。」と、直訴。「うーん、それは主治医の先生に言ってください。」と

chairman。(ちなみに、5年前の入院ときは、循内の木下先生が主治医。)

マトーは主治医になっても、毎日、お顔を見に行くことぐらいしかない。栄養管理は NST が、入浴や潰瘍は WOC や看護師さんがして下さる。それでも御主人は感謝して下さい、横浜からお見舞いにきてくれた義妹に紹介してくれる。「こちらはいつも良くして下さい。」「これらはずっと良くて下さるヒト。」「照れくさい…。そんなこんなで、盛り盛りと褥瘡も小さくなっていく。3週間後には、TP6.6、ALB3.1、HB9.7。

ケースワーカーの古川さんの鋭い病院選択眼と、病棟看護師さんの素晴らしいサマリーのおかげで、転院先が異例の速さで決まる。転院の朝、御主人が私たち

に御言葉を下さる。「ホント、皆さんに御世話になりました。古川先生にもよろしくお伝えください。」

当院で、形成外科医が会える患者さんも、ご高齢の方が増えてこられました。熱傷、褥瘡などの体表面の損傷も、細胞レベルでの優良な再建材料があればこそ、治癒を得られるのです。新生 NST チームはいろいろな職種の仲間で、仲良く楽しく食餌に科学的なアプローチを行っているところが素晴らしいと思います。その結束力が在院日数短縮、つまり、患者さんたちを、「本来、集い、和む場」に早くお返しすることにつながるのです。これからも、どうぞよろしくお願い致します。

形成外科 間藤

チーム医療の本当の姿

NST がチーム医療として活動していますが、最終的には全職員がメンバーとして同じ気持ちでやっていけるようにするための今は出発点だということをおぼろげにわかっていただいているでしょうか？栄養は入院患者に限らず医療の基本であり、すべての人に大切なことであることはご存知だと思います。例えば PEG の患者さんであれば、何らかの理由で PEG を造設しなくてはならなくなったのですが、その目的は栄養の確保であり十分な栄養がなければ QOL が保てないとか、リハビリが進まないとか、生きていくために栄養を優先させなければならぬためです。また、摂食嚥下訓練をすることによって経口摂取が再開

できるようになった後には、必要なくなり閉じることもできるものです。いろいろなりパビリをするためには PEG から食事を注入するのは半固形化することが時間も短縮できて好ましく、NST では実習まで行い広く普及させようと努力していますが、あまりすすんでいないようです。患者さんにしてみれば手技を覚えればコストも安く水分管理も楽になるのに。全人的な医療を掲げている当院では必須のアイテムのはずです。NST は患者を第一にそのスピリッツを失わずこれからも普及活動をしていくつもりです。

NCM 講演会

6月26日「栄養投与必要量について」外科小林先生にご指導いただきました。症例にもとづく参加型の講義でとてもわかりやすい内容でした。適正な投与エネルギーもよ



くわかりました。

NCM 講演会予定

月日	内容	担当
7/24	経腸栄養について & 試飲会	東別府先生
8/28	周術期の栄養について	小林先生
9/25	脳外・神内の栄養	葛谷先生
10/23	肝臓の栄養について	木本先生
11/27	腎臓と栄養について	田路先生
1/22	免疫と栄養について	永井先生

試飲会を7月24日(木)開催いたします。濃厚流動食(経腸栄養剤)がどんな味なのか、どんな特徴があるのか知っていただく最良の機会です。是非皆様ご参加ください。今後も栄養療法の普及、チーム医療の充実に努めてまいりますので、ご協力よろしくお願い致します。 毎週水曜日 PM1:00 ~ カンファレンス・回診 カンファレンス場所: 8F(861)NSTカンファレンスルーム